

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：62608

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12853

研究課題名(和文) 観相資料の学際的研究 マンガも視野に入れた古籍観相資料の分析と応用

研究課題名(英文) Interdisciplinary study Documents about physiognomy of --- Analysis and Application of Classical Physiognomical Books with bringing Manga Into View

研究代表者

相田 満 (AIDA, Mitsuru)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：00249921

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)： 観相の实地踏査：占い専門者は増えたが、人相専門術者は殆ど確認できなかった。情報学的見地成果：絵画との影響関係の立証のために、観相トピックデータベースの充実をはかった。また、ディープラーニングの手法を応用した人相各部位の吉凶判別の実験を行い、良好な結果を得た。中でも鼻が最も良好な結果であった。この部位は日本の古典絵画論や幼児教育でも着目されている所でもある。この結果は、マンガの分析についても有効な着眼点になり得ると予想される。なお、国際的研究については、イタリアと韓国から研究報告を得た。偶像崇拜の禁止と、迷信が好まれない国柄のため、観相への関心は高くないとのことである。

研究成果の概要(英文)： Field investigation of the viewpoint: Currently, the number of specialized fortune-telling people has increased, but most of the professional craftsmen of human face appraisal can not be confirmed domestically and abroad. Informatical viewpoint achievement: In order to prove the influence relationship with paintings, I strengthened the database of topic maps about physiognomy. In addition, I had got good results by conducting an experiment of judgment of each part of the human face applying the Deep-learning method[by using support vector machine, SVM]. Especially the nose was the best result. This part is also a place where attention is focused on Japanese classical painting theory and early childhood education. This result is expected to be an effective point of view for manga analysis as well. Meanwhile, I got research reports from Italy and Korea. Because the ban on idolatry and superstitions are not favored, interest in research of physiognomy is not high.

研究分野：和漢比較文学

キーワード：肖像 データベース 画像認識 観相 和漢比較文学 マンガ 古典絵画 説話文学

1. 研究開始当初の背景

人相見(面相)に代表される観相の歴史は古く、紀元前に遡る。また、その裾野も広く、医学の望診・肖像絵画の描き分け、王朝創世神話の演出、聖人や才人の異能の表象など、古来多くの言説が残されてきた。

相書と呼ばれる観相技術の蘊奥が記された書の登場も同様に古く、中国最初の書籍目録『漢書』芸文志に早くもその名が現れる。このことから、その知識体系の厚みは相当なものと思われ、残念なことに多くの艱難を蒙った中国では、その大半が失われており、むしろ書籍の残存量において、世界随一を誇ると考えられる日本の方が、相書の残存量においても潤沢と推測されるのである。

しかし、現代はどうかというと、営業店舗や相者を調べた限りにおいて、観相の代表ともいべき人相(面相)の専門術者はほとんどいない。その理由は、人相が変化しやすく不確実なため、せいぜい7割程度の確度しか保証できないからというのである。そのため、現在は四柱推命や易占等の他の術法が主流となっているという。

このことは、台湾・中国も同様で、世界的趨勢といえそうである。そこで、上記状況を鑑みて、相書の古典籍原本を使用して観相学の知識体系を整理することを志し、「観相資料の文学的研究」(平成21-23年度学振挑戦萌芽)・「観相資料の学祭的研究」(平成24~26年度総合研究大学院)の補助を受けて、複数の相書の知識体系の比較と記述内容の分析と考察可能な主題型データベースを構築(観相トピックマップ)し、併せて、国内外の観相の実態調査(東大阪市と台湾台北市・中国福建省泉州市)と、観相に関わる言説の収集と整理と研究を進め、その成果を公にしていた。

2. 研究の目的

本研究は上記のことをさらに発展させて、以下のことに取り組むこととした。

A. マンガにおける観相表現の影響について：現代マンガとの文化的継続性を考えて、'70-80年代初期までを画期ととらえ、当該時期までの少年少女マンガを中心に調査を進める。

B. 数理・情報学的観点による分析：心理学における測定法の一つで、意味差別法、あるいは意味微分法ともよばれるSD法(セマンティック・ディファレンシャル法[semantic differential method])によるアンケートを作成して、その結果を利用した人相の印象調査と、人相の各部位の吉凶情報を利用した人相自動判別処理に取り組む。

C. 国内外における観相の実態調査と記録・分析：人相(面相)による観相がどの程度行われ、その際の判定方法に差異は有るかかどうかという観点を中心に、日本国内および海外での観相の実態調査を行う。

D. データベースの構築と充実：以下のデータ

ベースの構築も並行して進める。

1) 観相トピックマップデータベースの充実化：観相の知識体系を把握するために、相書原本を主題(トピック)・画像・本文で構造化して、トピックマップデータベースを構築して、トピックとそれに関わる情報リソース間の関係を明示することにより、複数の相書の記述が横断的に検索できるようにする。

(<http://topicmaps-space.jp/physiognomy/>)
2) 古事類苑DB：国文学研究資料館(相田)・国際日本文化研究センター(連携研究者：山田奨治)と共同で関連する『古事類苑』の全文入力とデータ整備を進める。期間中は、人部の入力と、方技部の整備を中心に進める。
3) 歴史人物(古典キャラクター)画像データベース……国書古典籍の挿絵人物画像を集積する。(<http://base1.nijl.ac.jp/~rekijin/>)

3. 研究の方法

研究を進めるにあたっては、人相を代表とする観相学に関わる知識体系の整理を、以下の手法で進めた。

古籍の収集と整理：代表的な相書については、データベース化(トピックマップデータベース)を施し、構造化による内容の比較・整理をはかるとともに、サポートベクトルマシンによる情報分析のための資源とした。

国際的知見を得ながらの分析：イタリア・韓国における観相については研究協力者による調査報告による情報を得たほか、台湾・中国における実態調査を進め、あわせて現地の相者からの聞き取りも行った。

観相の影響言説の調査・収集：観相の言説を集積してデータベース化する。その際、位置情報が判明するものについては、Google Mapを利用して表示されるようにする。あわせて、読み情報のあるものについては、ルビ表示にて明示されるよう工夫する。また、日本古代の観相言説を分析するために、敦煌資料や日本に残存する宋代観相書との比較研究を行うことにより、研究の深化をはかる。

各連携研究者と研究協力者から得る協力については、以下の諸点について、協力を得ることとする。

1. マンガや絵画における観相に関する情報(関連する作品等の情報を連絡する)

2. 実地踏査における通訳と観相の被験者になってもらうこと

3. アンケートによる調査サンプル収集

各研究協力者とは個別に面談する機会も多いため、打ち合わせは、各地の実地調査先や、成果発表の機会を行うことで費用の節約をはかる。相書や調査対象資料は、相田が公開データベースを通じて理解と情報の共有をはかる。

4. 研究成果

観相の実地踏査[2-C]：研究期間中、以下の地域の実地踏査を行った。

〔海外〕西安：八仙宮 / 台湾：士林・行天宮・龍山寺

〔日本〕東大阪市：石切神社参道占い商店街 / 大阪市福島区聖天通：「売れても占い商店街」を標榜する水野南北の故地 / 奈良市駅前 / 立川市占い街

印の地は複数回の調査が行われた。ただし、これらの地は年々店舗数の増加が認められるが、観相（人相）を標榜する専門者の増加は認められなかった。それどころか、祈禱やラッキーアイテムの頒布により集客をはかる所が増えはじめていることが確認された。

データベースの充実と情報学的成果 [2-BD]：絵画の視点から観相を研究する事を支援し、観相の説を整理・分析するために、観相トピックデータベースの充実を以下の2点の方向で進めるとともに、成果の発表を行った。

(1) 青空文庫を主たる取材源として観相に関わる言説の位置情報を地図上で表示する機能をデータベースに付加した。

(2) 相書に記載される目・鼻・口・眉などの絵に吉凶フラグを加えて、各相書間に相違があるか検証を行った。その際、ディープラーニングの手法を応用したサポートベクトルマシンによる分析を行い、データ蓄積量の増加とともに確度が増すことが確認された。特に鼻の絵の識別率が正面で80%、左右で70%を超える最高値を示し、人相専門者が標榜する的中率70% (檀幸嗣氏 [東大阪市]) を上まわり、自動人相を判別する道筋が実証できた。

このことは、西川祐信の画論や幼児教育の酒井式描画法 (酒井臣吾) と一致し、現代マンガにも援用可能な結果となった。本成果は、情報処理学会大会での発表や、異分野融合と学際研究を構築・模索するための研究集会「I-URIC フロンティアコロキウム 2016」にて紹介した。

なお、上記の研究で使用された基礎データは公開データベース「観相トピックマップ」 (<http://tmap1.topicmaps-space.jp/physiognomy/>) に使用されたデータを利用している。

(3) 古事類苑データベースについては、山田奨治 (国際日本文化研究センター) が観相と関係の深い入部の全文データベース化に取り組んだ。なお、『古事類苑』データベースの公開 URL は次の通りである。

〔国文学研究資料館〕

<http://base1.nijl.ac.jp/~kojiruuen/>

〔国際日本文化研究センター・古事類苑全文データベース〕

<http://ys.nichibun.ac.jp/kojiruuen/>

国際共同研究と成果発信：国際共同研究会と国際シンポジウムにおける成果発信を行った。前者は研究代表者の所属所を会場に魯成煥氏 (蔚山大学) 「韓国人にとって観相とは何か」の発表のほか、オレグ・プリミアニ氏 (大東文化大学) 「イタリア人から見た観相文化」等の発表と討議を行ったが、イ

タリアは偶像崇拜を禁止する国柄故、観相的視点は日常的には見あたらず、韓国もドラマ・映画などで観相が取り沙汰される点が多いが、総じて文化的痕跡をたどることは困難との認識の上で、韓国に於ける観相文化の歴史について報告が行われた。

また、同年8月31日に、和漢比較文学会海外特別例会 (於：台湾大学) にて、研究協力者黄昱と観相に関するセッションを組み、口頭発表を行った。また、国際シンポジウムは、台湾と大東文化大学でそれぞれ観相をテーマとしたセッションが組まれた。それぞれ研究協力者の知見を得ながら、観相と絵画・文学との関係が深められた点で意義ある会となった。

マンガおよび絵画に関するデータについては、国会図書館から公開される近代デジタルライブラリーを中心に、マンガ黎明期から現代に至る主要なマンガキャラクターの整備を行うにとどめた。

その理由は、主人公のキャラクター化に際し、動物イメージが付与されるものが少なく、その行為・発想自体が人相と同時期に起こり、資料的にも人相と同様の古い歴史を持つ動物観相学の視点を採り入れた分析を考えに入れなくてはならないことが判明したため、この視点による成果の発表については、次の研究フェーズによる研究体制を組み、基礎資料の収集と計画立案を行うことにした。

日中における観相に関わる言説を分析するために、分析資料のレンジを広げて敦煌資料を採りあげて、声を指標とする言説の分析を行った。声は文字による再現が困難ではあるが、特徴を比較する基準が単純なので、顔相よりも時間的経過による表現の変化や印象の変化を受けにくい。そのため、現代にも通用する具体的描写で記述され、国境をこえた普遍性があるという特徴がある。音源の忠実な伝達や再現の点に課題を残しはするが、高い・低い、女性らしい声、特定の動物の声などという表現に共有される印象には揺らぎが少なく、格好の指標といえる。次段階で構想する動物観相学にも通じる点で重要な着眼点となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計10件)

相田満、観相書『神相全編』の日本における受容 『南総里見八犬伝』の『神相全編正義』受容と併せて、東洋研究 206、大東文化大学東洋研究所、査読有、2017、pp1-41

相田満、声で定命を知る観相譚 『今昔物語集』6-48 震旦童児聞寿命経延命語を手がかりに、和漢比較文学会第10回海外特別例会 和漢比較文学シンポジウム 2017 予稿集、2017、pp121-126

玉森聡・松井知子・相田満、サポートベクトルマシンを用いた自動人相判別の検討、情報処理学会第78回全国大会講演集、4F-05、

2016、pp523-524(2)、査読有
相田満、観相資料の学際的研究 発展研究のための理論と可能性、情報処理学会論文集「人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん)2015」、査読有、2015、pp225-232
相田満・高野純子、観相から見る日本文学史の試み 序説 特設コーナー展示資料解説から、国文学研究資料館紀要文学研究編42、2016、pp207-235
DOI: 10.24619/00001867
相田満、『日本における『神相全編』享受考 『八犬伝』を中心に、2016 和漢比較文学検討会論文集、台湾大学日本語文学系・和漢比較文学会編、2016、pp45-51
相田満、『国文学研究資料館の収蔵品 21』2番目に古い騎馬武者像 浮世絵師の描いた足利尊氏像：西川祐信『絵本武者備考』、文部科学教育通信 367、2015、pp2-2
黄昱、もうひとつの観相の系譜 『徒然草』第百四十五・百四十六段を例に、2016 和漢比較文学検討会論文集、台湾大学日本語文学系・和漢比較文学会編、2016、pp37-43
安保博史、『南総里見八犬伝』における『神相全編正義』文化四年本の受容 犬坂毛野の観相、水門 言葉と歴史 27、水門の会編、2016、pp54-59
蔵中しのぶ、犬坂毛野の「賛」と「肖像」 『南総里見八犬伝』第六輯巻頭口絵・役者絵の表象、水門 言葉と歴史 27、水門の会編、2016、pp60-84
〔学会発表〕(計12件)
相田満、『古事類苑』解体新書、東洋文化談話会研究例会、於：於：町田市玉川学園コミュニティセンター、2018年1月28日
相田満、『古事類苑』を読む、和漢比較文学会東部例会、於：中央大学、2018年1月27日
相田満、声で定命を知る観相譚 『今昔物語集』6-48 震旦童児聞寿命経延命語を手がかりに、和漢比較文学会第10回海外特別例会 和漢比較文学シンポジウム 2017、於：西北大学長安校区 2017年8月31日
相田満、観相資料から見る・考える(「ヒト・人・人間学」分科会2 知性と人工知能) I-URIC フロンティアコロキウム 2016、2017年3月2日、於：ホテルアソシア静岡
相田満、肖像と画像言説の相関性について 浮世絵の大家・西川如信の画論・画業と現代的意義3題、総合研究大学院大学文化科学研究科学術フォーラム、2016年12月11日、於：国際日本文化研究センター
相田満、観相の視点からみた図像・絵画研究 肖像と画像言説の相関性について(初期浮世絵の大家・西川如信の現代的意義3題)「東西文化の融合」国際シンポジウム第8回、於：大東文化大学大東文化会館
相田満、『特集3 文学と観相』『日本における『神相全編』享受考 『八犬伝』を中心に、『日本における『神相全編』享受考 『八

犬伝』を中心に、和漢比較文学会第9回特別例会和漢比較シンポジウム 2016、2016年8月31日、於：台湾大学文学院演講ホール 玉森聡・松井知子・相田満、サポートベクトルマシンを用いた自動人相判別の検討、情報処理学会第78回全国大会、2016年3月11日、於慶應義塾大学理工学部
相田満、どう使う?! データベース 歴史人物画像(古典キャラクター)データベースを中心に、103 學年度国文学研究資料館相田満先生專題演講、2015年6月29日、103 學年度国文学研究資料館相田満先生專題演講、於：輔仁大学(台湾台北)(學術講演)
黄昱、『特集3 文学と観相』もうひとつの観相の系譜 『徒然草』第百四十五・百四十六段を例に、和漢比較文学会第9回特別例会和漢比較シンポジウム 2016、2016年8月31日、於：台湾大学文学院演講ホール、オレグ・プリミアニ、イタリア人から見た観相文化、国際共同研究会「観相資料の学際的研究」2016年7月26日、於：国文学研究資料館第1会議室
魯成煥、韓国人にとって観相とは何か、国際共同研究会「観相資料の学際的研究」2016年7月26日、於：国文学研究資料館第1会議室

〔その他〕
ホームページ等
観相トピックマップ
<http://tmap1.topicmaps-space.jp/physiognomy/>
古事類苑データベース
国文学研究資料館
(テキスト版/全文・抜粋検索版)
<http://base1.nijl.ac.jp/~kojiru/en/index.html>
国際日本文化研究センター
(全文データベース)
https://daito.manaba.jp/ct/home_course
6. 研究組織
(1) 研究代表者
相田 満 (AIDA、Mitsuru)
国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号：00249921
(2) 連携研究者
三田 明弘 (MITTA、Akihiro)
日本女子大学・人間社会学部・教授
研究者番号：00277865
山田 奨治 (YAMADA、Shoji)
国際日本文化研究センター・研究部・教授
研究者番号：20248751
松井 知子 (MATSUI、Tomoko)
統計数理研究所・モデリング研究系・教授
研究者番号：10370090
安保 博史 (ABOU Hiroshi)
群馬県立女子大学・文学部・教授
研究者番号：60271483
蔵中 しのぶ (KURANAKA Shinobu)
大東文化大学・外国語学部・教授
研究者番号：40215041

(4)研究協力者

魯 成煥 (NO Sung-hwan)

蔚山大学校・人文大学・教授

黄 昱 (HUAN Yu)

国文学研究資料館・プロジェクト研究員

オレグ・プリミアニ (Oleg PRIMIANI)